

## G研 思わず話したくなる場面を通して、道徳的価値に目覚める子どもの育成

### 道徳学習指導案

指導者

- 1 主題名 正義の味方とは
- 2 資料名 「 おじさんからの手紙」 自作資料 4 - ( 3 ) 正義の実現
- 3 指導観

本主題のねらいは、誰に対しても公平・公正な態度で接し、人として行わなければいけない正しい道（＝正義）とは何かを、自らに問いかけることである。正義とは何かについて考えさせることは、次のような意義がある。

まず、本当の正義とは自分が傷つくことを覚悟することである。人は誰かの身になって考えることや思いやることはできても、自分を犠牲にしてまで他人を助けることは難しい。そして、そうすることが人として正しいのか間違っているのかを日常生活の中で自己に問うことは少ない。

次に、この時期の子どもは、正義や良心とは何かということを理解することはできる。しかし、その反面、友だち同士の間人間関係を意識したり、自分の良い行いが周囲の人からどう見られているか、ということに過度に意識したりする傾向がある。そのため、自分に不利益がもたらされることをおそれて、正しいと思うことでさえも、消極的な行動にでてしまうことがある。誰に対しても公平にふるまうことは民主的な社会生活を営む上で大切なことであり、また、それを実現するためには「我もよし、人もよし」と思える人間愛に気付くことが不可欠であると考え。

本時の学習の中で、正義の実現とは何かを考えさせることで、本当の正義とは見せかけや他人の評価ではなく、自分の心を豊かにするためのものであることに気付かせたい。

本学級の子どもたちは4月より、学級目標である「 マンの心」を軸に、自分のできる親切や思いやりを周囲に広げることが心にかけている。そして誰かのために自分の力を使うことで心がさわやかになり、自分の行いが相手の気持ちをもさわやかにするということに気付いている。

しかし、その思いが自分本位の考え方からくるものであるのか、本当に相手のことを思って行った行為であるかを振り返る機会がない。また、自分が損をしてまで相手のために尽くすことが、道徳的に価値のあることなのかを考える機会がない。

本資料は、本当の正義とは自己犠牲の上に成りたつものでありうるのかということ、正義の味方 マンの、とるべき行為を通して考えさせるための自作資料である。

ドキンちゃんのために薬草をとりに行った マンが遭難してしまう。困っている人を助ける正義の味方 マンが登場する。しかし、 おじさんからの手紙で、 マンを助ければ、もう二度と正義の味方ではいられなくなることを知る。

本当の正義とは、自分を犠牲にしてでも相手を助けることなのか、また、相手が マンという悪の象徴であっても、正義を貫くことが必要なのかについて、葛藤場面を作り出す。

そこで、本時では次のような手立てをおこなう。

展開後段の時間配分を工夫し、児童同士が互いの考えを十分に交流できるようにする。児童が自信をもって発言し、もっと話したいと思うことができるように、まず小グループでの交流をし、次に全体で交流させる。  
ねらいとする道徳的価値の大切さに気付くことができるように、児童の発言の背景を読み、発言を類型化しながら板書を工夫する。

# 展開

資料名：「

## おじさんからの手紙」

主題名：正義の味方とは

ねらい：登場人物のとるべき行動を考えさせ、本当の正義とは何かに気付かせる。

	学習活動	予想される子どもの反応	教師の支援
導入 5分	1 「正義」に対する自分のイメージを想起し、本時のめあてをつかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>強い</li> <li>悪者を倒す</li> <li>思いやりがある</li> </ul>	<p>自分の経験を想起させるためにあらかじめとったアンケートを提示する。</p> <p>本時で感じとってほしい道徳的価値を認識させるために、教師の願いを話す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>マンを作ったやなせたかしさんは「本当の正義とは時には自分が傷つくことを覚悟できるもの」と言っています。相手が誰であれ、人として正しい行いができる人になってほしい</p> </div>
展開前段 10分	2 資料「おじさんからの手紙」を聞き、話し合う。 (1) 紙芝居を聞き、自分の考えをもつ。 (2) 道徳ノートに自分の考えを整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>手紙にはどんなことが書いてあったのかな。</li> <li>マンを助けるべきなのかな。</li> <li>マンを助けたらもう新しい顔は作ってもらえない。どうしたらいいのかな。</li> </ul>	<p>登場人物の気持ちにせまることができるように場面図や雰囲気作りの工夫をする。</p> <p>児童の興味・関心を高めるためにおじさんからの手紙を予想させ、個人個人に読ませる。</p> <p>児童が自分の考えを生き生きと表現できるように、机間巡視をしながら児童の思いに共感する。</p>
展開後段 25分	3 本当の正義とは何か、話し合う。 (1) 自分の考えを友だちと語り合う。  (2) 教師の話を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつも悪いことをしている人を助ける必要はない</li> <li>マンを助ければ他の多くの人を助けられなくなる</li> <li>相手がマンでも困っている人を助けるべきだ。</li> <li>おじさんの願いは自分を大切にすることだ。</li> <li>本当の正義とは、自分よりも相手のことを思う気持ちが必要なのかな。</li> </ul>	<p>児童の考えの裏にある道徳的価値を見いだすために、考えの根拠をしっかりと発言させる。</p> <p>児童が自信をもって発言できるように能動的聞き方で発言を受けとめる。</p> <p>ねらいとする道徳的価値を視覚的にもとらえさせるように板書の仕方を工夫する。</p> <p>めあてを振り返り「正義の実現」とはどういうことか実感させるために教師の実体験を語る。</p>
終末 5分	4 今日の学習で分かったこと・感じたことについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しいと思うことは勇気をもって行うことも大切なんだな。</li> <li>時には自分が損をしても相手を思いやることも必要なのかもしれない。</li> </ul>	<p>児童の思いを温かく受け止めるために能動的聞き方で児童の発言を聞く。</p> <p>友だちの考えを聞くことで新たに分かったことや自分で気付かなかったことに気付かせる。</p>

めあて

正しい行いをするとき、大切な心を見つけよう。

